

せんの森プロジェクト



第2期行動計画書（平成26～28年度）

概要版

1. 第1期行動計画（平成21～25年度）の成果

■保全

成果1

小田深山の実態の把握

- ◆ 第1期計行動計画における各種活動を通じて、小田深山の実態を把握

成果2

植樹活動の開始

- ◆ 愛媛森林管理署と協定締結を行い、「ふれあいの森」において広葉樹の植樹活動を実施

成果3

関係機関等との協力関係の構築

- ◆ 定期的な愛媛森林管理署や愛媛県等の関係機関との意見交換を通じて良好な協力関係が構築。



渓流ウォッチング



苗木づくり



ふれあいの森における植樹活動

■活用

事業参加者・来訪者の増加

- ◆ 広報や普及啓発に力点を置いた取り組みにより知名度が高まり、事業への参加者（図1）や小田深山荘の利用者数等の増加に寄与。
- ◆ 平成24年度の写真集発刊により、深山荘の利用者が増加傾向（図2）、活用面において一定の成果あり。

成果1

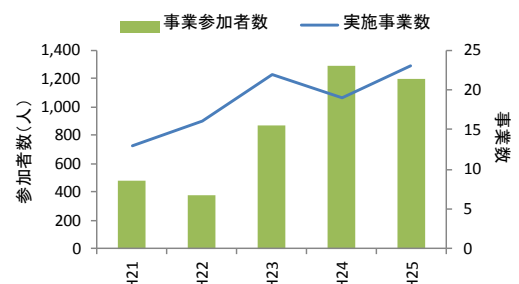


図1 せんの森プロジェクトの事業数および参加者数の推移 (せんの森プロジェクト事務局より)

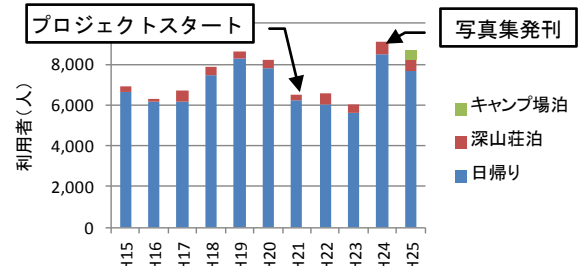


図2 小田深山荘の利用者数の推移 (内子町観光集客数しらべ)

成果2

地域住民、民間事業者等の参加

- ◆ 一部の地域住民が定期的に活動に参加、小田高校や地元自治体、企業等が学習会等に活用
- ◆ 民間の事業者、団体の主催によるエコツアー（商業的ツアー含む）等が開催

2. 第1期行動計画における現状と課題

■保全

現状

- ◆ 第1期では保全活動に着手したが、人為的活動等により小田深山溪谷に対する負荷は増大傾向。
- ◆ 第1期の活動を通じて小田深山の自然や景観のすばらしさを再確認し、保全の重要性を認識した。
- ◆ 来訪者は、小田深山の優れた自然環境や景観の美しさを求めている。

課題

保全活動の実践

持続的な活用には、小田深山溪谷の保全を軸とした積極的な保全活動が不可欠。

■活用

現状

- ◆ 訪れる人の満足度は高く、リピーターも多い。
- ◆ 来訪者は、遊歩道や道路の案内標識、地図、案内人等の改善を望んでいる。
- ◆ 現状での受け入れ態勢では活用範囲や活動内容は限定的である。

課題

受入体制の整備

地域特性や自然環境のキャパシティを十分検討して受入体制を整備する必要がある。

■地域との関わり

現状

- ◆ 第1期は事務局主導で、活動に関わる団体や個人は限定的である。
- ◆ 写真集の発刊により、地域住民が小田深山の価値に気付き始めた。
- ◆ 小田深山と地域住民の関わり方が明確に位置づけられていない。

課題

地域住民の参加

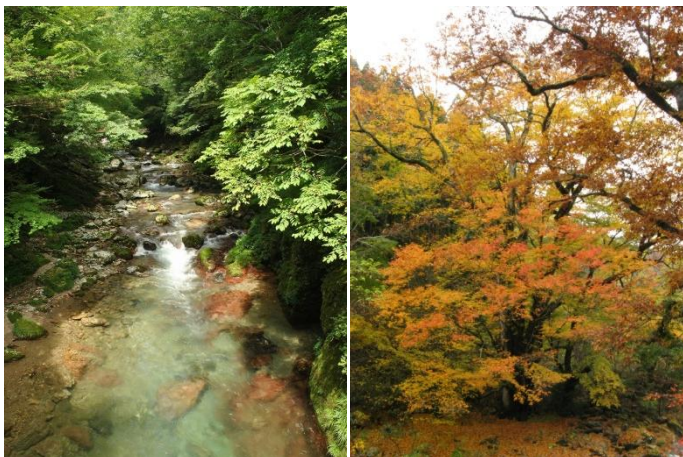
地域住民に対する情報発信、共有により小田深山に対する関心を高め、活動への参加を促す必要がある。

3. 小田深山の価値とは？

小田深山の価値を再確認

小田深山の価値は小田深山溪谷の自然環境にある

- ◆ 訪れる人々の約86%が「小田深山溪谷」に小田深山の価値があるとみている(図3、図4)。
- ◆ 小田深山溪谷をはじめとする優れた自然環境や景観が保全されていることが活用の前提条件となる。



小田深山溪谷

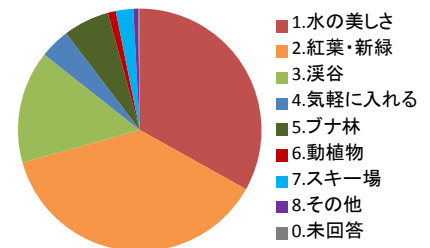


図3 来訪者にとっての小田深山の魅力

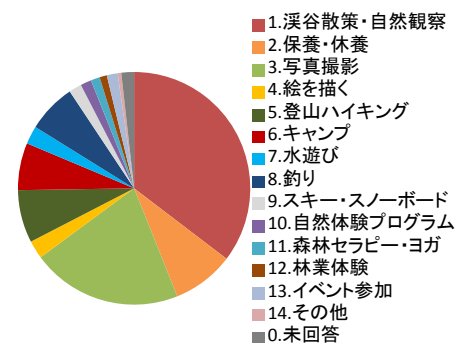


図4 来訪者が小田深山でしたいこと

(平成25年度11月実施アンケート結果より)

4. 第2期行動計画 推進に向けた基本的な考え方（案）

基本理念

今ある豊かな自然、自然を大切にする心、
自然とともに生きる文化を、未来の人々に引き継ぐ

目的

小田深山の価値を高める

地域の人々と共に渓谷の保全に軸足を置いた活動を推進し、小田深山の自然環境の質と生物多様性の維持と向上を図ることにより、内子町の財産である小田深山の価値を高めていく。

目標1

小田深山渓谷の 保全再生を推進する

地域住民の参加を促しながら、小田深山渓谷における具体的な保全活動を推進し、小田深山の価値の向上を図る。

目標2

来訪者の 満足度を高める

小田深山のキャパシティを十分に考慮し、来訪者の増加を促すことよりも、来訪者の満足度を高める取組みに重点を置いた活動を推進する。

目標3

小田深山に関わる 人を育てる

小田深山の自然環境の素晴らしさや保全の重要性、各種活動について情報の共有化を図り、地域住民の小田深山に対する関心を高め、保全・活用に関わる人を育てる。

方針1

溪畔林の保全再生 活動の実践

- ◆小田深山渓谷の保全、再生に向けた長期的な視点に基づく具体的な取組の実践。
- ◆活動を通じて来訪者に小田深山渓谷の素晴らしさとともに、渓谷保全の重要性を伝える。

方針2

受け入れ体制の整備

- ◆来訪者のニーズを掴むとともに、「小田深山らしさ」を提供できる受け入れのあり方を吟味する。
- ◆案内板等の既存施設の整備や改善、ソフトの充実を図り、来訪者の満足度を高める。
- ◆小田深山荘の改築を含む総合的な施設整備、地域間連携を想定した活用のあり方等を検討。

方針3

人材の育成

- ◆地域と小田深山の新しい関わり方、住民が活動に参加できる体制づくりを進める。
- ◆地域住民等に対する積極的な情報発信、情報の共有化を図り、小田深山への関心を高め、渓谷の保全や活用に主体的に参画できる団体や個人の裾野を広げる。

方針4

関係機関との協働

- ◆小田深山の環境保全に向けて関係機関との連携を強化し、協働による保全活動等を実践。

6. 第2期行動計画 活動内容

■保全活動

目的	地域住民とともに活発な保全活動を進める	
活動主体	溪流保全活用部会、事務局、せんの森クラブ、住民サポーター、運営委員会	
活動1 溪畔林 の再生	<p>溪畔林の再生による上下流の自然林の連続性の構築を目指し、長期的視点な立った溪畔林の保全再生を計画し、科学的な裏付けを確保しながら、地域住民とともに活発な活動を進める。</p> <p>①調査活動：現状把握（樹木調査、稚樹調査） ②計画立案：対象地の検討、保全再生方法（年次計画立案） ③関係機関との協働：協議会の開催、調整、手続き ④育苗センター設立（拠点整備）：千年の森、森の学校等 ⑤保全活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動候補地：五色河原、遊歩道沿い溪畔林、町有林、ふれあいの森、千年の森など ・苗木の育成・植栽：種子採取→苗木づくり→植栽 ・せんの森クラブ、サポーターによる定期的、持続的な活動 	
活動2 小田深山 自然環境 保全条例 (仮称) の策定	<p>小田深山の自然環境と生物多様性、森林資源の保全および向上を図ること、加えて保全の意義について広く周知徹底を図るため、町民および関係機関の合意と参加のもと、町、町民および事業者のそれぞれの責務、活動の指針を示す。</p> <p>①条例の方針、対象等の検討 ②調査活動 ③条文骨子の作成 ④関係機関との協議・調整 ⑤原案作成 ⑥策定に係る手続きおよび施行</p>	
	<p>図5 溪畔林の再生活動の候補地</p>	

■受入体制の改善・強化

目的	来訪者の満足度を上げる活動を進める	
活動主体	施設整備部会、せんの森クラブ、事務局、内子町、運営委員会	
活動1 ソフト整備	<p>来訪者のニーズを掴むとともに、来訪者が必要とする情報を整理し、提供する。</p> <p>①小田深山マップづくり：来訪者に配布できるマップ、パンフレット等の作成（交通、散策ルート等） ②ニーズ調査：来訪者に対するアンケート調査（各種活動へ反映） ③人材活用：専門家、アドバイザー等の人材を活用する。</p>	
活動2 既存施設 の整備	<p>既存施設について来訪者の視点に立った改善、改修を行い、不安や不満を解消する。</p> <p>①案内板等の整備、改善：各種施設の現状確認調査、遊歩道沿いの案内板、道路標識等の整備、改善 ②ネイチャーセンター（森の学校）の機能充実：ビジターセンター、調査研究拠点としての整備</p>	
活動3 小田深山荘 改築に向け た提案	<p>持続的な経営に向けて、「小田深山らしさ」を提供できる総合的な受入体制の検討、提案</p> <p>①小田深山らしい、受入のあり方の検討 ②施設検討委員会等における提案</p>	

■情報の共有・発信

目的	小田深山への関心を高め、住民参加を強化する
活動主体	せんの森クラブ、地域住民、事務局、運営委員会
活動1 せんの森 自然学校 (仮称) の開校	<p>住民との情報共有を積極的に行うことで小田深山に対する関心を高め、学習を通じて小田深山との新たな関わり方の発見やせんの森プロジェクトへの関わり方のステップアップを促す</p> <p>①小田深山シンポの開催：住民啓発、隔年開催 ②小田深山なんでも報告会の開催：小田深山に関する調査や活動の報告（年1回開催） ③「まちなか」での定期学習会：町中での町民向け講座開催 ④内子町内の小中高校生を対象に環境教育プログラム（自然、文化、歴史）の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然、保全の重要性を学ぶプログラム（座学、実習） ・年数回実施：夏休み、冬休み、春休み ・公募による任意参加→将来的に授業「小田深山学」として組み込む
<p>図6 せんの森プロジェクトへの参加とステップアップのイメージ</p>	
活動2 広報活動 (情報発信)	<p>小田深山の自然や取組みなど、人を惹きつける情報を定期的かつタイムリーに提供し、小田深山に対する関心を高める。</p> <p>①HPの更新：タイムリーで行ってみたいくなるような情報の提供 ②情報誌（センス）の発行：定期刊行（春夏号・秋冬号） ③新たな情報媒体の活用：パンフレット、マップ、フェイスブック等の SNS 活用 ④他の地域の観光拠点等との連携を想定した活用方法の提案</p>

■継続活動

目的	せんの森プロジェクトらしい、経済活動ソフトを確立する
活動主体	事務局、せんの森クラブ、民間事業者・団体、地域住民、内子町産業振興課
活動1 エコツアー イベント 等の開催	<p>エコツアーやイベントを通じて、参加者に小田深山の自然環境の豊かさや素晴らしさを伝えるとともに、渓谷や生物多様性の保全の重要性も伝え、理解を促す。</p> <p>①エコツアー・イベント（四季）の開催 ②トレイル整備：既存トレイルの維持管理、新規ルート開拓 ③ガイド育成：講習会の定期開催、ハイシーズンにおけるガイドやスタッフ等の実践</p>
活動2 木工ブランド 開発	<p>小田深山の素材を活用した木工ブランドとしての製品の製造、開発を進める。</p> <p>①「森の真珠」生産体制の整備：小田深山の木地師復活 ②新製品開発</p>
活動3 木こり市場 プロジェクト	木こり市場プロジェクトは、「町産業振興事業」へ移行する。
活動4 活動主体	本事業の継続を図るため、活動主体となる組織のあり方について検討し、設立を目指す。「せんの森プロジェクト運営委員会」は全体的な審議会として継続する。